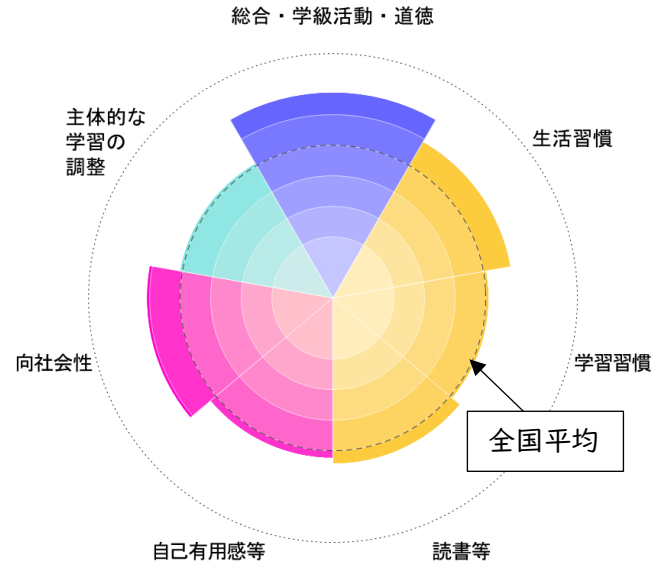


## 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果より

令和7年4月17日（木）、全国の小学校6年生（およそ18,000校）を対象に、全国学力・学習状況調査が実施されました。本年度は、国語・算数・理科と質問紙調査があり、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等が問われました。また、質問紙調査については、「教科に関する意識・学習活動」や「主体的・対話的で深い学び」「生活習慣」「読書」「自己有用感」「向社会性」などの質問にオンラインで回答しました。

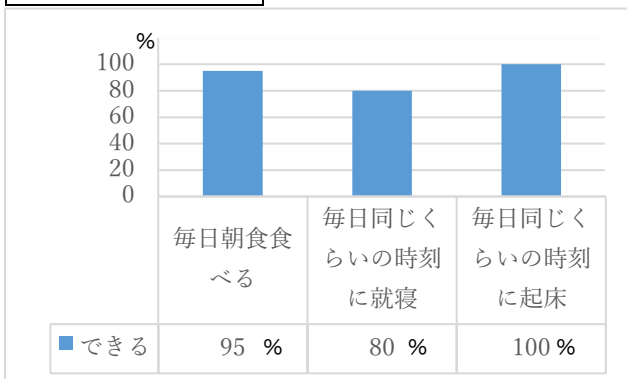
本校の結果を全職員で分析し、協議し、指導に活かしているところです。ご家庭におかれましても、7月18日（金）に、お子様が持ち帰った個人票を再度確認していただき、引き続き学習面と生活面でのご協力をよろしくお願いいたします。

右のグラフの通り、質問紙調査の結果は、全国平均（内側点線）を上回っています。学習習慣と主体的な学習の調整、自己有用感等がもう少し高くなることを期待するところです。



### 【質問紙調査】※「できる」＝どちらかといえばできるを含む

#### 生活習慣について



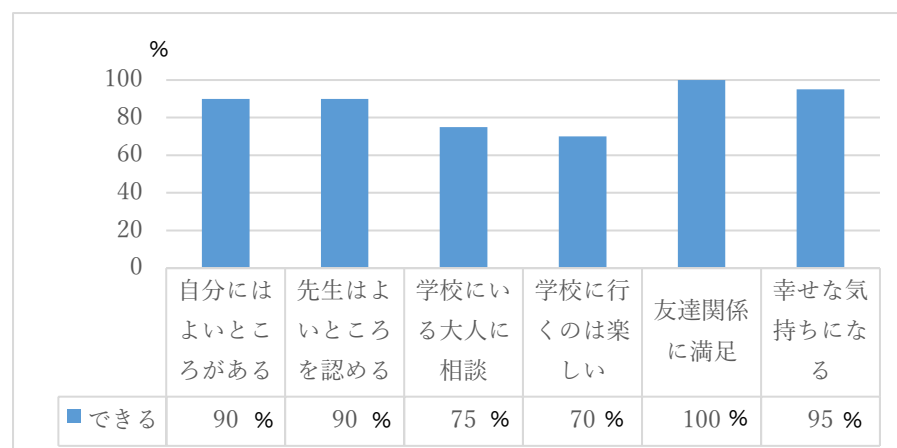
生活習慣は、「生命を維持し健康に暮らす」「社会生活を営む」ために必要です。

引き続き、お子様の成長に合わせた生活習慣を身につけ、自立につながるようご協力をお願いいたします。

左記の通り、安定した睡眠時間をほぼ確保し、朝食が摂れているため、心身ともに元気な学校生活が送れていると捉えます。

睡眠時間や食事は、「脳の発達」に大切な役割があることを再度確認いたします。

#### 自己有用感と well-being(身体的、精神的、社会的に満たされている幸福)について



グラフからも分かるように「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」と95%の児童が回答しています。

自己有用感が高いと自分の行動に対してより積極的になります。自己肯定感とは、自分の行動や決定が自分自身の意志によってコントロールされていると感じている状態のことです。決定とは、将来〇〇で働くなど大きなことを決めるだけ

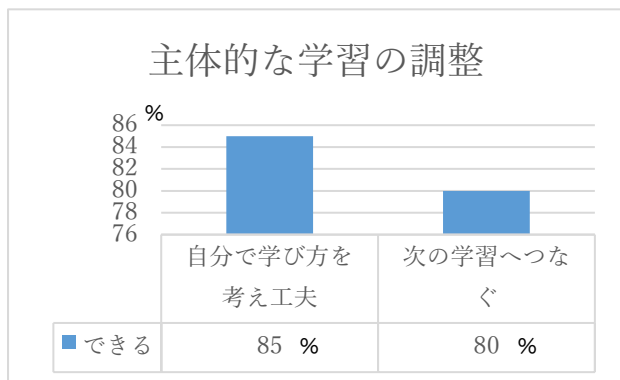
ではありません。「お菓子を買う」「公園へ行く」「勉強をする」「友達と遊ぶ」など日常の決定の連続です。

このような場面で、つい、大人が先回りして、お子様の可能性を狭めていることはありませんか。お子様の自主性を尊重し、大人が待つ、お子様の自己決定感を育てることがとても大切になります。

自主性を尊重されたお子様は、自分の力で行動します。自分で選んだ道を進むことで、責任と自信をもちます。そして、達成感、満足感も大きいことでしょう。

これからの社会で大切なのは、自分で考え、行動する力です。学校においても、今年度から、なかよし班を活用し、給食、掃除に取り組んでいます。上級生の姿を真似し、よりよい策を考え、子どもたち同士で伝え合い、解決し、創り上げることができるよう見守り、支援しながら教育活動を進めているところです。

### 主体的な学習の調整と学習習慣について



主体的な学習の調整においては、「できる」が80%以上となっています。分からないことや詳しく知りたいことがあった時は、自分で学び方を考え、工夫したり、学習した内容の分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習へつなげたりしているようです。

しかし、学習習慣の結果を見ると、学校以外の

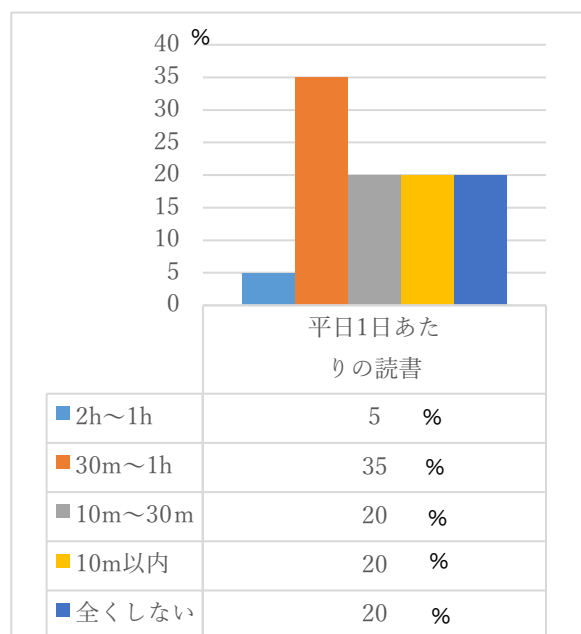
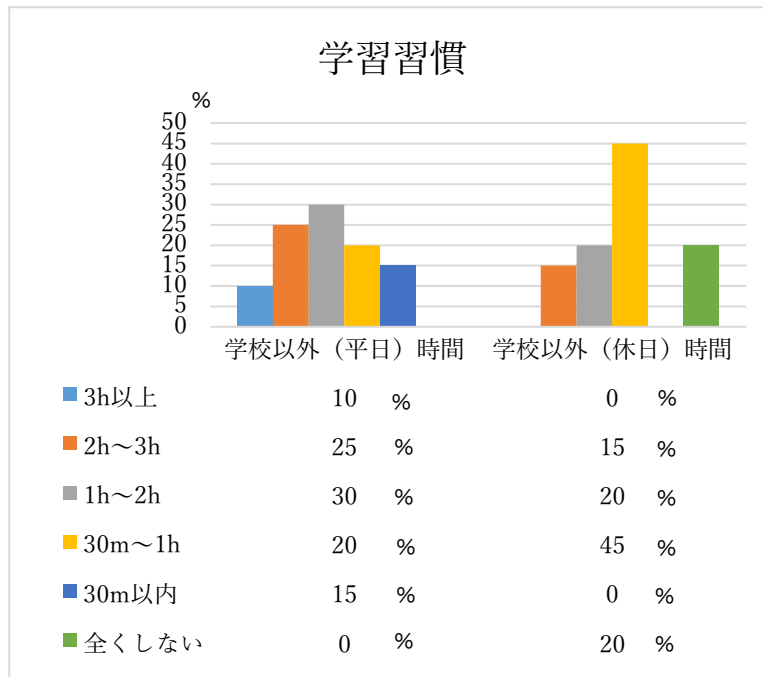
学習は、休日1時間未満が65%となっています。そこで、【すきま時間】の活用はいかがでしょう。まず【時間がない】思考の枠を取っ払い、【いつだって、どこだって勉強はできる】と思うことで、学習時間はぐんと増えるのではないのでしょうか。

机に向かって勉強できない場合は、運動の合間、お風呂、布団の中など、人によってやりやすい場所は違います。ちょっとした時間を活用したり、やりやすい場所を見つけたり、ふとした時に思い出し、取り組むなど、【すきま時間】を使えるようになるといいですね。

学校においても「おの検定」「期末テスト」へ向けた計画・準備・確認をしたり、「マイスタ」の取組をなかよし班で交流したりすることによって、ちょっとした時間で主体的に学ぶ姿勢を育てていきます。

### 読書等について

学校以外で、読書する児童が80%いる反面、全くしないと20%の児童が回答しています。毎日1時間の読書が難しければ5分だけ、あるいは、週に1冊読む。難しければ月に1冊を目標に取り組んでみることはいかがでしょうか。大切なのは自分なりのリズムを見つけ、それを楽しみながら続けることです。日常は『何をやるか、やらないか』の判断の繰り返しです。【やらないこと】を決めるのではなく、読書をするために、【何かをやめる】勇気をもつことを大切にしたいものです。例えば、SNSやゲームに費やす時間を減らして読書にあてる。買い物へ行く時に、図書館へ立ち寄るなど小さな変化の積み重ねが、やがて、大きな習慣の変化につながります。

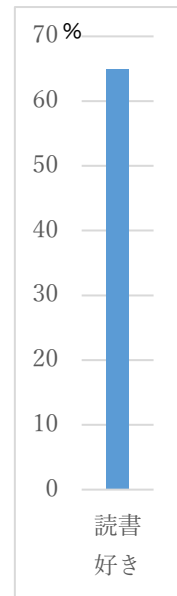
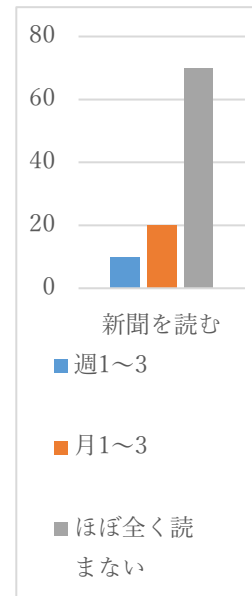
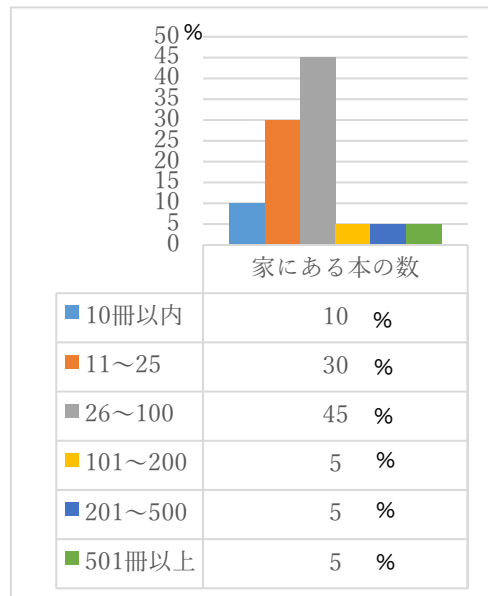


読書をすることで語彙力が豊富になります。語彙力が豊富な子どもは、文書を読んだり、人の話を聞いたりした時に、その意味を正確にとらえ、知識を吸収し、日々、触れる情報の質と量も飛躍的に高まります。また、語彙が豊富だと、読解力も表現力も育ち、生活の中でも分かる、伝えられる、考えられる場面が増え、自信や自己肯定感アップにつながります。

人間関係を良好に築くことができる語彙力は、感情のコントロールや人間関係を築く力にも関係しています。

自分の気持ちを的確な言葉で表現できる子どもは、トラブルを減らし、他者とも対話も円滑に行えます。語彙力は人生を豊かにする思考と対話の道具であるといえますね。

そこで、学校では、6年間で身につけてほしい感情や行動などの語彙をカードに表し、階段に貼ることで、自然と多くの語彙に触れ、文章の中や日常での会話で使えるようにしていきます。



## 【国語・算数・理科の学習状況調査】

### 国語の結果分析

国語は、良好でした。「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えることができる」短答式問題正答率は100%でした。「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づくことができる」の選択式問題正答率も大変良好でした。

一方、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなど必要な情報を見つけることができる」選択式問題は、課題が見られました。今後は、思考、判断、表現における読むことを改善していく必要があります。

そこで、深い学びを取り組む方法として、思考の可視化を1つ提案します。順序の図を使って文章を書き出して並べたり、比べる表を使って2つのものの違いを書いたり、中心の事柄から考える広げていく図など、入れ物を指定し、「分ける」といった基本の整理の仕方を取り入れていきます。これらは、論理的に物事を考えたり、図やフローチャートを使って可視化したりすることで内容がすっきり整理され、具体的にわかります。

例えば、プログラミング教育で学ぶ、図やフローチャートを使いながら、目的に応じて、必要な情報を見つけることができるようになっていくのではないかと考えています。

### 算数の結果分析

算数は、全国平均と同等でした。無解答がなく、最後まで問題と向き合っていた姿がうかがえます。

「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述で書く」「10%増量の意味を解釈し、増量後の量が増量前の量の何倍になっているか」について課題が見られました。今後も引き続き、分かっていることをもとに、絵やテープ図、関係図で表したり、場面における数量関係を捉えたりしながら、思考したことを言語化し、求める式を表すことができるよう取り組みます。

そして、個の「見方・考え方」を広げていくために、対話を通して伝え合う場面を引き続き取り入れます。特に、割合においては、割合を用いた比べ方の良さに気づくためにも、日常生活の何気ない場面で生かせるようにしたいものです。

また、「台形を選ぶ」「角の大きさの理解」は、図形の置き方を変えたり、台形にするためにどう構成しなおせばよいかを考えたりしながら、図形を構成する要素に着目して理由を説明し、条件や考え方を身につけていきます。

「数直線上で1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉える」では、0～1までが何等分されているかで単位分数が決まることを日常の中で繰り返し使うことで、さらに理解が深まり楽しく活用できるよう取り組みます。

また、友達の発表を自分のものにしていくために、発言した友達の意見に対して、「つまり」「例えば」「もしも」などの言葉を使って、自身で具体的な事象に置き換えてまとめたり、考えを深めたりしていくことができるようにします。

## 理科の結果分析

理科は、良好でした。「生命」「地球」を柱とする領域は、全国の正答率を大きく上回っていました。なかでも「ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身についている」短答式問題は正答率100%でした。

一方、「エネルギー」を柱とする領域で、特に、「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身についている」「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解している」選択式問題は、課題が見られました。そこで、金属の中で、電気を通す性質を持っていても、非磁性金属は磁場に対して適応しない可能性のものがあること、また、水が姿を変えることをおさえるだけでなく、生活経験や身の回りの事象と関連付けて実感をもたせていきます。

特に理科は、様々な実験、活動を通して気づき、興味関心が生まれやすく、より主体的に学ぶ意欲、思考力を鍛えることができます。そこで、理科学習から、既習内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力、主体的に解決していく力を養い、他教科へつながるように取り組んでいきます。

何においても興味を持たなければ深い学びまでたどりつくことはできません。そのため、実験や観察などを通して、五感で感じ、学びにつながるP（予想・計画）D（実験）C（評価）A（改善策）による、どこでも使える成長サイクルの土台作りを意識しながら、身近な生活の中で、全ての結果には原因があることを念頭に置き、大きな価値を見出せるようにします。

## 【まとめ】

今年度の全国学力・学習状況調査は、国語、算数、理科、そして質問調査がありました。全職員で、分析した後に、来住小学校全体の学習や生活をも振り返りました。その結果、言語能力として、語彙の定着の必要性を感じます。

昨今、様々な言葉が飛び交い、一つの言葉で幅広く用いられる言葉まであります。例えばよく言われる「やばい」は、本来、「まずい」「危ない」といった意味ですが、今では、「すごい」「素敵だ」というようにポジティブにもネガティブにも多様に使われています。このように、言葉は、時代により、人により生き物のように変化しています。

そのような中、語彙を正しく捉え、表現できる力こそが豊かなコミュニケーションを生むと考えます。そのため、授業の中で言語能力を育てるためにも、振り返りや意見の根拠を明確にし、表現と理解の基礎を正しい言葉を用いながら伝えることができるようにしていきます。

また、生活の中から課題を見つける力を養い、興味関心をもたせ、深い学びにつなげていきたいものです。

これらは、学校だけではなく、家庭でも課題を見つけることができれば、親子一緒に答えを探すなどして思考力を伸ばすことにもつながります。こうして、知識と生活がつながっていくことでしよう。

小さな取組を積み重ね、子どもたちの生きる力を学校と家庭とが、ともに連携して取り組むことができますよう、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。